

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

会長挨拶

横浜市仏教連合会

会長 齋藤隆法

会員のみなさまには御健勝にて寺務にご精進のことと拝察し、心からお喜び申し上げます。

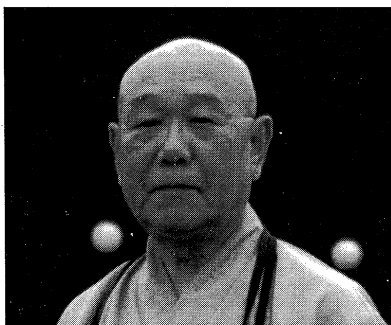
さて本年も残すところ僅かな月日となりましたが、顧みますと本

既に亡くなられた御霊に心から安らかにと御祈り致します。

悲しい事だけではなく今年、横浜にとつては嬉しい年でありました。箱根駅伝で神大の優勝を始め横浜高校の春夏連続優勝など。

また今年には神奈川県体が横浜を主会場に開催され、十月八日に横浜ベイスターズが三十八年ぶりのセリーグ・ペナントレースの優勝を果たしました。

私達は常日頃、み仏様のご慈悲を頂き、ご先祖様に守られて生きております。各宗の宗祖様のみ教えをいただきながら自分一人の生命ではなく、多くの人々の生命をお互いに尊重し、助け合い愛し合い励まし合いの輪の中の生活があることを忘れてはなりません。



年はいろいろと悲喜こもごもの出来事が多い年でありました。珍しく台風が関東地方を襲い大なり小なり、各都市で災害が発生し大変なことでした。心からお見舞い申し上げます。また関西方面で七号台風により尊い堂宇などにかなりの被害があり残念なことです。一日も早い復興を祈念致します。その他にも相変わらず悲しい事件の一つに、毒物による尊い人命を奪ったり傷付けるような行為は許せません。和歌山の事件も漸く解決の兆しが見えてきたようです。

十一月には市仏連釈尊奉誦会の広島原爆被災者の慰霊と山陽路への旅行があります。一人でも多くご参加をお待ちしております。終りに各寺院の檀信徒の皆様のご繁栄とご健勝を祈念して、ご挨拶といたします。

合掌

上山される板橋禪師



また、総持寺併設の幼稚園生から大学生までもが参列され、まさに揮毫の句にあります「和氣満堂」そのものでした。

壇上に登り、緊迫した空気の中、十五名ほどの修業僧の問答に次々と力強く丁寧に答えになられました。下壇された後、学園の園児生徒らにより花束が渡され満堂の拍手をあげ、無事円成の運びとなりました。

ご自身の著作『良寛さんと道元禪師』（光雲社）を記念品として

市仏連名誉会長 板橋興宗 禪師 晋山式

市仏連前名誉会長成田芳範禪師のご遷化(本年一月二十二日)を受け、曹洞宗大本山総持寺貫主に就任されました板橋興宗禪師の晋山式が、去る四月九日、あいにくの雨模様ではありましたが、厳粛に挙行されました。すでに慣例によりまして当連合会の名誉会長に就任いただいておりますことは、前号でお知らせしました通りです。

午後零時三十分山門到着後、仏殿に拝登され、広い堂内が宗門内外の人々で埋め尽くされた大祖堂に入堂されました。禪師様は、前任の寺が石川県の大乗寺というところで、そちらからの有縁の方々、



和氣満堂

總持 興宗

平成十年度横浜市仏連連合会第二十五回総会は、五月二十九日午後二時より中区大平町西有寺において開催されました。

総会開会にあたり、先ず開会の言葉を市仏連副会長の玄野孝善師が述べられ、引き続き市仏連会長齊藤隆法師より挨拶をいただきました。挨拶の中で本年度より書類提出が義務づけられた新宗教法人法に於ける書類提出の件に触れ、税法に詳しい会長から説明をいただきました。引き続き議長の選出にりましたが、本部一任のことで戸塚区仏教会会長の吉水法雄師が選出され議案の審議に入りま

第二十五回総会開催

した。第一号議案の平成九年度事業報告について林田眞成専務理事が説明し、主催行事の結果報告と



参加行事並びに具慰霊堂出仕結果報告、また新しく設置された時局対策委員長の佐藤功岳師より時局対策の報告をいただきました。第二号議案の平成九年度決算報告については会計橋下賢明師より報告及び説明がなされ、第三号議案の会計監査報告が監査役の内野公雄師より報告されました。第四号議案の質疑応答に入り全て意義なく出席者全員拍手をもって承認されました。九年度事業報告・決算報告に続き第五号議案の平成十年度事業計画案の説明が専務理事よりなされました。主催行事の内、第二十四回涅槃会は緑・青葉区仏教

会が担当に当たっていること。市仏連会報は第四十七号、第四十八号が発行されること。参加行事においては具慰霊堂奉仕活動をローテーション通り実施するとの説明がなされました。第六号議案に移り平成十年度予算案の説明が会計よりなされました。

第七号議案である平成十年度事業計画案・平成十年度予算案の承認に入り質疑応答がなされた結果、両議案通り可決されました。第八号議案の春の仏跡参拝旅行の山梨・恵林寺、さくらんぼ狩りの件について本年は天候不順が続き、さくらんぼ不作のため当地に於けるさくらんぼ狩りは無理との事でそれ代わるものを本部役員が下見をして場所の選定をする事となりました。

以上で議案審議はとどこおりなく終了し、玄野孝善副会長が閉会の言葉を述べて第二十五回総会は無事終了となりました。このあと引き続き懇親会にうつり、和やかに

第十五回春の仏跡参拝記

山梨・甲府方面

六月十六日(火)、市仏連主催の恒例の仏跡参拝旅行が実施された。今年も、臨済宗の名刹恵林寺を訪ねての旅であった。



にお互いに話題が尽きぬ内に午後五時に散会となりました。総会会場をおうけ下さいました西有寺さまには大変お世話になりました感謝申し上げます。(三、四面に資料掲載)

ービスエリアに四台のバスが予定通りに集結。御殿場から河口湖、大月を経て中央高速を一路甲府へ。甲府盆地に入ると、高速道の周囲は緑のジュータンをかぶせたようなどうを中心とした果樹の新緑がまぶしい。甲府インターを降り、一直線に恵林寺へ進む。恵林寺は一五六四年に夢窓国師によって開かれた臨済宗妙心寺派の古刹である。一同、三門前にて記念撮影を行ったあと堂内に入り、齊藤会長をご導師に読経参拝を行った。続いていかにも禅僧の風格の中に



会長挨拶(恵林寺にて)

- ―具慰霊堂出仕当番表―
- 10・11・5 鶴見区仏教会
 - 11・1・5 栄区仏教会
 - 11・4・5 泉区仏教会
 - 11・6・※ 瀬谷区仏教会
 - 11・10・※ 都筑区仏教会
 - 11・11・※ 緑・青葉区仏教会
- ※印は日時未定

計 報

香川隆善・浄土宗中田寺住職、泉区初代仏教会会長がご遷化され、去る四月十日に本葬儀が執り行われました。具仏・市仏の常任理事として、市仏連四十周年記念大会には委員として活躍いただき、また涅槃会の会所としてご尽力いただきました。謹んで哀悼の意を表します。 合掌

横浜市市仏教連合会 平成九年度取支計算書

取入金額 2,953,928 円
支出金額 1,822,805 円
収支差額 1,131,123 円
(自平成9年4月1日 至平成10年3月31日)

Table with columns: 取入の部, 科目, 予算額, 決算額, 増減. Includes sub-sections like ①会費収入, ②雑部金, ③過年度取入金, ④前年度繰越金.

Table with columns: 支出の部, 科目, 予算額, 決算額, 増減. Includes sub-sections like ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費.

次年度繰越金 1,131,123 円
平成10年5月10日

上記の通り取支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 青藤隆三

監査の結果 相違ない事と認め、計 橋下賢明
監査 野次隆幸

横浜市市仏教連合会 平成十年度歳入歳出予算書

歳入金 2,836,123 円
歳出金 2,836,123 円
(自平成10年4月1日 至平成11年3月31日)

Table with columns: 歳入の部, 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Includes sub-sections like ①会費収入, ②雑部金, ③過年度取入金, ④前年度繰越金.

Table with columns: 歳出の部, 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Includes sub-sections like ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費.

平成10年5月10日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 青藤隆三
計 橋下賢明

時局対策委員会報告

委員長 佐藤功岳

「宗教法人法が改制され、私共仏教界も衆目を集める様相を呈しております。近年極一部の不心得な人々、団体による社会に対する裏切り行為は、今日まで善意を基として運営して参りました仏教界に大きな汚点を与えました。

加えて、葬儀問題、ホスピス、環境汚染、高齢者や青少年の問題、税務関係、防災対策や常に私たちの欲望を刺激して止まない溢れた情報。こうした諸問題は、特異に全国的なことだけではなく、当横浜市にも多くの影響を与えていると考えます。

私たち仏教徒は、自らをふりかえり、且つ社会の発する要望を真摯に受けとめ、社会不安解消の一助たるべく応え、行動していきます。」

上記運営理念をふまえ、本委員会はまず仏教界全般に影響のあることを調査研究、具申する方向で活動することとなり、2年間に亘り葬儀問題を取り上げることとなりました。

事 業

葬儀に対する調査・対応の研究

委員会活動

H 9.	7. 3 1	第1回委員会	於大円寺
	9. 2	正副委員長会議	於禅林寺
	9. 9	第2回委員会	於大円寺
	11. 1 2	第3回 "	"
	11. 1 2	新宗教法人法研究	"
	11. 1 2	委員会忘年会	於横浜大飯店
	12. 2	市仏連忘年会	於橋 家
H 10.	2. 4	正副委員長会議	於禅林寺
	2. 1 7	第4回委員会	於大円寺

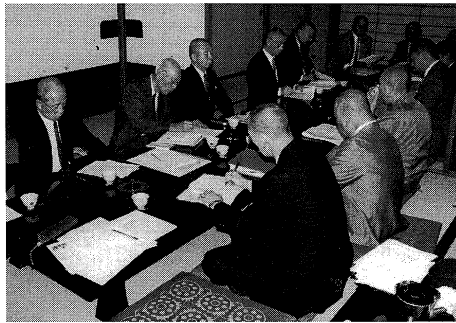
平成10年度事業計画

主催行事

- 1 定期総会(第25回)の開催
- 2 三役会の開催……………4回
- 3 常務理事会の開催……………2回
- 4 理事会の開催……………2回
- 5 会計監査の実施……………1回
- 6 涅槃会の開催……………1回
- 7 記念講演の開催……………1回
- 8 市仏連会報の発行……………2回
- 9 市仏連発の発行……………1 2回
- 10 各支部活動に助成協力
- 11 県仏教会との相互連絡
- 12 祝電・弔電の打電
- 13 仏跡参拝旅行の実施
- 14 釈尊奉賛会増強の実施

参加行事

- 1 横浜市釈尊奉賛会行事に参加協力
- 2 巡拝の旅に参加協力
- 3 県仏教会活動に参加協力
- 4 県仏青活動に参加協力
- 5 会員主催行事に参加協力
- 6 県宗教連盟活動に参加協力
- 7 県慰霊堂奉仕活動の実施



本委員会は、前期からの継続で葬儀に関するアンケートに取り組んでおります。

寺院へのアンケートは回収率が低いとの説がありますが、今回は四百三十余ヶ寺のうち一五四ヶ寺から返信をいただきました。委員一同喜ぶと共に、各聖の今般のアンケートへの関心の高さに大いなる励ましをいただいた感をお知らせいたします。集計には鋭意取り組んでおりますので、年度内には皆様のお手元へお届けできるかと考えております。

集計をしいて考えることは、私達が一人ひとり常に意識を高めて接していなければ、どんどんと私たちの望む方向と異った方向に運ばれていくこととす。こ

葬儀アンケート中間報告

時局対策委員長 佐藤 功岳

この反面、お寺によっては宗教としての葬儀が賑々として厳修されていることも判明しております。

しかし、このような寺院は極少数であり、大多数は業者主導の一過性セレモニーと化しているように思われます。

このアンケートを踏まえて、更に檀信徒に安心を与える市仏連たる方向に少しでも寄与すべく、使命感を新たにしております。

備付書類提出状況

宗教法人法改正に伴う提出書類の提出状況は、神奈川県私学宗教課へ問い合わせたところ、九月末日現在、全国一八三、八三五法人中提出二二八、四六六法人で、提出率六九・九%、神奈川県三、八三七法人中提出二、七〇〇(強)で、提出率七〇・四%といふことである。

未提出法人については十一月末までに随時、督促を行い、国からの要請では、最終的未提出法人には科料措置をとる由。未提出の会員はご注意を。不明な点は私学宗教課までお尋ね下さいとの事。

ある法要の後の斎席で、〇〇寺の住職さんのことをどう呼んだらよいのか教えて下さいと問われた。

『お寺さん』『お坊様』『ご住職』『和尚さん』『お上人』『方丈様』などいろいろに使われる。

なぜこのように呼ばれるのだろうか。宗派による違いはあるのだろうか。古来の呼び名からか、時代劇では『出家』『雲水』『拙僧』『ご住持』などの呼称が出てくる。

現代では、宗教法人の書式には『代表役員』と記し、新聞の職業の記述では『僧りよ』と書かれる。

葬儀業者からも、「曹洞宗〇〇寺ご住職様を導師として…」と紹介したところ、曹洞宗と言ったのなら、『方丈』と言うべきだと指

話 材

紹 介

お坊さんの呼び名

僧侶呼称の由来

①僧という呼び名は、仏法僧の三宝の僧伽(サンガ)に由来する。もともとサンガは、四人以上の仏道に励む人々の集団を指した。サンガの構成員は比丘・比丘尼・沙弥・沙弥尼の四衆から成る。中国では、「和合」、「衆」と訳されたり、川の水が集まり和合して海となることより、「海衆」とも呼ばれた。訳語と音写語を合わせて、「和合僧」ともいわれた。また、同義語の侶という漢語を音写語の僧に重ねて付加し、僧侶と呼ぶようにな

摘されたとの声があつた。「なかなか難しいもんですね。しっかりと御教示願いたい」というような若の声を聞くことが会員の皆様も数多くあるのではなからうか。

そこで今号は、我々の『僧』という呼び名のあれこれを雑学的に取り上げ、話材特集に組んだ。

もう一つは、話材特集に組んでいるのは区仏において、涅槃会、花祭り、慰霊堂出仕等、多くの合同法会が毎年行われるが、意外と他の宗派の役名呼称についてはご存じないのではなからうか。そのため、各宗派での配役の呼び名をおおまかにまとめてみた。参考になれば幸甚である。

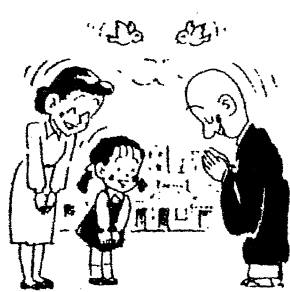
つた。日本では、一人の修行者を僧侶と呼ぶ用例が一般的となり、僧と略され、個人を指すようになった。…〔集団呼称〕

②沙門は、梵語シユラマナが源語となり、音写されたもの。髪を剃り、淨らかな志をもった仏道に励む出家修道者を指す。出家は、梵語プラウラジヤナの訳語で世俗を離れ、家を出て仏道修業を志すものの意。家にあるという意味の在家の対語。出家者は、三界に家な

しであるから遊行とも呼ばれ、中国禅宗では、行雲流水の如く乞食の旅をすることから雲水と呼んだり、衲(ころも)を雲にたとえて雲衲と呼ばれたりした。(出家呼称)

③時代を経て、仏教教団が発展し、

定住するようになると、教団の維持管理の立場と、強化指導の立場が出てくる。前者の側から生まれた呼称が住職である。もとは禅宗の用語で、世に住して教えをたもつ(持)ことから住持と呼ばれ、住持職から略して住職となった。また、寺という漢語は役所の意であったが、僧が来て泊まったことにより、僧の住居を寺と呼ぶようになった。その寺の周囲に垣をめぐらした建造物を院と呼び、寺院と総称されるようになった。もともと寺院は山中に造られることが多かったため、寺院には山号が付いた。坊は、区画・区院の意で、庵は集落を離れた隠遁的な僧房であった。これらの主である僧のことを山主、寺主、院主、坊主、庵主と呼んだが、やがて主人公という意味だけでなく、僧侶の通称として用いられるようになり、ご住職、ご寺院、お寺さん、お坊さんと呼ぶのが一般的となった。関西地方では、院主から来たのであろうか住職のことをゴインス、ゴエンさんなどと呼ぶ。なお、庵主(あんじゅ)さんと呼んだ時は一般に尼僧を指すことが多い。また、禅寺



では住持、居室が一丈(三メートル)四方であったことより丈室、方丈の間と呼ばれたが、そのために住職のことを方丈さんと呼ぶようになった。転じて、住職以外の僧侶の通称にもなっている。…〔管理者呼称〕

④和尚は梵語ウパドヤーマの俗語オンシャ、コツシャの音写と言われている。これは、出家受戒する時の師にあたる僧侶を指した呼び名である。転じて、一般の僧侶に対しての尊称となった。華嚴宗や天台宗では和尚(かしょう)、法相宗・真言宗・律宗などでは和尚(わじょう)、禅宗・浄土宗では和尚(おしょう)と呼ぶ。おしょうさんがつまって「おっさん」「おっちゃん」と呼ばれることもある。

また、阿闍梨(あじかり)は梵語アチヤリーの音写であるが、弟子を教授する師の意である。密教では法法灌頂(でんぼうかんじょう)を受けた者をいう。これらの他、教化者としての尊称で呼ばれるものに僧正、聖人、上人、法師などがあげられるが、宗派によつて級階、使われ方などの差異がある。

また、布施と訳される梵語ダーナは、音写では檀那と書き、一般的には僧に施をする信徒を指すようになるが、逆に法施を信徒に施すという意味で僧侶の呼び名として使われることもある。いずれにしても寺に住し、檀越に仏の慈悲と智慧の両面からの救済を法施し、寺内においては徒弟の育成をする住職・僧侶の役割から考えてみると、導師、教師、先生、御前様と

呼ばれてもおかしくない。…〔教化者尊称〕

以上、いろいろな呼び名の由来を、仏教辞典、その他の文献を参考にまとめてみたが、①④の分類名は編集子によるものである。

各宗派での呼び方

各宗派では、この横浜でどの様に呼ばれているか、または、どう呼ぶべきなのかを任意に取材し、一般檀信徒、僧侶仲間、仏事関連業者の三つに分けてまとめた。

一般檀信徒は、各宗派を通じて「ご住職」「住職さん」と呼ぶのが、一般的な傾向である。住職以外の呼称では、禅宗系で圧倒的に多いのが「方丈さん」であるが、浄土宗でも多く使われている。また、「和尚さん」もよく使われ、「おっさん」「おっさま」などと親しみを込めて呼ばれることも多いという。真言宗では和上(わじょう)、天台では和尚(かしょう)と呼ぶのが本義であるが、一様に「おしょうさん」となっている。この呼び名は「上人(しょうにん)」と競合する場合があります。日蓮、浄土が上人派、真言、曹洞、臨済が和尚派、真宗、天台が混在派と言え

るのか。その他では、真宗で「ごえんさん」「ごいんしゅさん」と呼ばれることがある他は、住職のように通宗派的な言い方の、「先生」「御前さん」「お坊さん」が使われるようだ。

僧侶仲間では、「〇〇寺さん」という寺号名が圧倒的で、ついで地域名、僧名、名字など固有名詞で呼び合つことが多いようである。

このように、宗派や地域によって呼び方に変化がある。また、近年は、インターネットなどで、僧侶の呼称に関する情報が簡単に入手できるようになり、呼称の多様化が進んでいる。このように、僧侶の呼称は、時代や地域によって変化する。また、呼称の多様化は、僧侶の役割や地位の多様化を反映している。このように、僧侶の呼称は、仏教の発展とともに変化する。また、呼称の多様化は、僧侶の役割や地位の多様化を反映している。このように、僧侶の呼称は、仏教の発展とともに変化する。

改まった場や宛名の差し出しし尊称では、真言で「僧正」「山主」、日蓮では「僧正」「上人」、曹洞では、寺名のとが「方丈」、氏名のとが「老師」を多用する様である。臨済では、老師は限られた僧にのみ使用する。浄土では「上人」を使うが、真宗では用いないことが多い。また、天台では「和尚(かしよう)」を使う。

仏事関係業者では、「先生」「住職」「〇〇寺様」「お導師」といった通宗派的な言い方が、最もよく使われるようだ。無難で適当と思われる方々の一方で、宗派に合った呼び方や、住職自身の考え方に沿った呼称を希望する会員諸師も多いものと思われる。「方丈さん」「お上人」「和尚さん」と言った選択を要するような呼称については、各諸師の見解も様々なような感觸であった。

まとめ

以上見て来たように、由来は様々であるが、意外に各宗派共通の呼ばれ方をしてるように感じられた。「坊主(ぼうず)」という呼び方は、職業差別語であると主張する人もいるが、確かに「お坊さん」とは呼んでも、「お坊主さん」とは言わないので、陰で侮蔑的に使われることが多いのであろう。また、「先生」と呼ばれるのは、こそばゆい感じがするし、「住職」というのも冷たい管理的なニュアンスで嫌いだと言われる諸師もいる。無難な先生、ご住職呼称のはやりは、お檀家と住職が身近に接

する機会が減った兆候とも言えるようか。反面、「おだんな」とか、「おつさま」とか親しみ深い呼び名も現存していることに心暖まる思いがあった。また、年代の違いの呼称として、大(おお)住職、大先生や、若住職、若方丈、若和尚、副住職、若さん、子坊さん、お小僧さんなど世襲制を反映した呼び名も定着している感がある。

法会・法要に参加することを出仕(ゆつし)、随喜(ずいき)などと呼ぶが、集まった僧の役割名については、各宗派に多少違いがある。この度の取材で感じたことは、各派が影響し合っているためか、同じような役割づくりをしていることと、呼び名にも共通する点が多

法会の配役

系	中心者	責任者	僧 役	発声者	回向文	補佐役	鳴し物	道場係
天台	導師	会行事	式衆	始経	導師	-	-	承社
真言	導師	会奉行	式衆	経頭	導師	従弟子	式衆	承仕
浄土	導師	会行事	式衆	維那	導師	伴僧	式衆	殿司
臨済	導師	会行事	式衆	維那	維那	侍衣	式衆	殿司
曹洞	導師	会行事	式衆	維那	維那	侍衣	式衆	殿司
日蓮	導師	会行事	式衆	鑿座	導師	従者	式衆	会行事
真宗	導師	式司	法中	調声	導師	侍香	式衆	加役

愚人独言

科学・技術の進歩は、私たちに大いなる恵みをもたらしました。遠く遙かな道も、歩いて行くより自転車の方が楽だし、自動車よりは自動車の方がもっと楽に決っている。そんなふうに快適さは、留まる所を知らないかの様です。

しかし、その一方、犯罪は増し続け、低年齢化の一途を辿っています。「日本は、いったい何時からこんなな成つてしまったんだらう」と嘆く人も居ますが、一寸考えて見て下さい。ストレスだらけの世の中で、苦難に真面目に立ち向かうよりは、薬物に溺れている方がどれほど楽か、汗水垂らして働くよりは、盗んだ方が楽に決っている。

これ等の根底に流れるものは共に「楽」でも楽をして、快適な生活がしたい。」という人類の素朴な願いであり、私たちが確かに歩いて来た道であります。全ては成るべくして成つて来たのでしよう。コンピューターが普及し、民主主義が浸透し、宇宙旅行さえも夢ではない今、世界中が様々な分野で、答えの無い、出口の見えない迷路に行き詰まっています。

最近、マスコミで「人類は、いったい何処へ向つているのでしょうか」と言うフレーズを耳にしました。「人間が一番賢い」とか「人の命が最も尊い」などと、とんでもない思い違いをしているのうちは、人類は滅びるしかないだろうと思えます。そして、困ったことに、この「とんでもない思い違いをしている人類」と言うのが何処かの誰かさんではなく、まさにこの私だと言う事です。

他人になんか負けるわけがな

「衆」と呼ぶ。ただし、多少の意味合いが違う。

その他、法会・法式全体のディレクターとでも言うべき責任者や、唱え言の発声ともなるリーダー、導師の補佐にあたる者、堂内の準備下役にあたる僧など、各宗、名称は異なるものの、役割は似ている。また、回向文(えこうもん)のお唱え方、様々な鳴らし物の担当等は、各宗の儀式進行上の特徴があり、一様ではない。各分派教団内での違いも多く見られたが、割愛させていただきます。

いと思ひ、誰の世話にも成らないとうそぶき、その気にさえなれば、どんな事でも出来ると思ひ込んで溢れる自信と足りない自覚のその人でありませぬ。他人に頭を下げる事も嫌いなら、心からお礼やお詫を言つても満足に出来ない。然して大なるもの御前に、自ら掌が合はさつて来ない、額突く生活が一向に始まらないと言ふ事なのでしよう。このまま、幾つも齢を重ねながら、それでも人は少しは変わつて行くものなのではうか。本当に老いて、体が不自由に成つたり、おむつの生活に成つたりした時、この賜つた人生を心底から喜べるのでしょうか。

何時だつたか不思議な老人が居ました。老人はこんな事を言つていました。「近頃、齢取るんが楽しゆう成りましてね、以前見えとつたもんが、近頃よう見えんく成つた。こん前まで聞こうとつたこん耳も、ようよ聞こんごたる。少し前まで覚えとつたこんが、今はよう思ひ出せんごたる。明日は何が起るか楽しみな。」……。

(栄区長慶寺 中村良照)

支部だより

泉 区

平成七年十二月に「宗教法人法の一部を改正する法律」が公布され、平成八年九月十五日に全面施行されました。

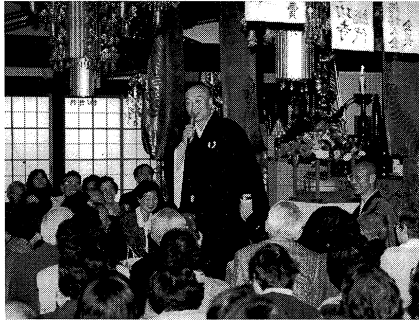
これにともない、関係書類を所轄庁へ提出することになり、その対応について、当仏教会では、平

成十年六月九日(土)、神奈川県庁私学宗教課担当職員をまねいて、研修会を開催しました。

当日は、宗教法人法の改正点につき説明を受けた後、質疑応答により理解を深めることが出来ました。普段は、法務、あるいは地域、その他で忙しく活躍している上人もこの日ばかりは、熱心に耳をかたむけ、意義のある研修会が、出来ました。

鶴見区

鶴見区仏教会の一大行事である

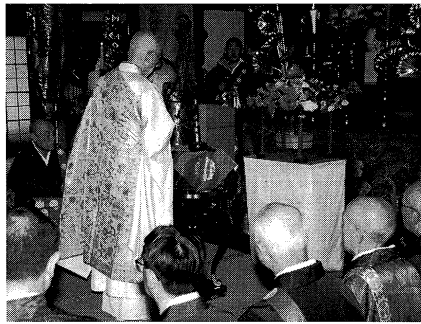


花まつり、本年は特に盛会裡に開催されました。会所をお引受けの馬場町の建功寺様は何十年に一度しかめぐり合えない会所当番だからと、大変な力の入れよう、ポール牧さん・熊林一道の日程予約をされたり、すばらしいイベントの計画実現で四月五日(日)大勢の子供さんや家族連れで境内はごった返した。午後三時からの法要を前にミニ

S.Lの乗車会。都筑太鼓の演奏などが行なわれ、綿菓子・焼きソバなどの模擬店、鉢花の即売コーナーも設けられ華やかな雰囲気になりました。因みにミニS.Lは檀家の入連が三年がかりで仕上げた特製で運転手は元JRの駅長さんがかつて出たそうだ。また釈尊の生涯を描いた子供向けのアニメ映画も上映された。三時から恒例の法要が厳修され、各界の代表が誕生仏に甘茶をかけてお祝ひした。

謝辞に立つた奉讃会会長の横山哲夫県議は「いまの日本は、みんなが自分を見つめなおす時代にきている。釈尊の教えに新しい希望を見いだし、正しい道を歩んでゆきましょう」と語った。あと記念講演にうつり、僧侶でコメディアンとして活躍しているポール牧さんの巧みな話術にホロウされ、参詣者に深い感動を与えたようでした。(会長 横井久運)

鶴見区仏教会の花まつり
ミニS.Lや太鼓に



子供ら、大喜び
地元住民と一緒に
釈尊誕生を祝う



保土ヶ谷・旭区

今年度の当区仏教会は次の新役員が改選され発足いたしました。

- 会長 三仏寺 吉川 瑞浩
 - 副会長 清来寺 曾我富美雄
 - 同 金剛寺 細川 秀純
 - 庶務 浄性院 高島 善隆
 - 会計 大仙寺 安達 信宏
- 次にこれらで実施された諸行事についてご報告致します。
- ◎四月八日 釈尊花まつり厳修。法話は光安寺長谷川昌光師。会場三仏寺。
 - ◎四月二十九日 総会を萬珍楼にて開催す。十七ヶ寺の参加。
 - ◎五月十八日 恒例の春の仏跡参拝旅行。雨の朝、現代科学力の結集による東京湾アクアライン、海ホテルを通過、みどり深い森閑清浄たる坂東霊場笠森寺、清水寺の

二ヶ寺と清澄寺を参拝した。参加者百七十余名。

- ◎五月二十一日 「税務研修会」を、講師に市仏連会長齋藤隆法師にお願い致し開催す。於三仏寺。
- ◎六月五日 県慰霊堂奉仕。午前十時法要、七ヶ寺院の出席。
- ◎六月十三日 長見寺第三十九世の晋山式。会長出席。
- ◎六月二十二日 旭区薬王寺において嵐山重忠公慰霊祭厳修。
- ◎九月五日 役員会が三仏寺にて開催。正副会長、事務局出席。

西 区

市仏連合より、区仏教会だよりの依頼を受けましたが、私共西区の仏教会におきましては、四月七日会場を赤門、東福寺様にて、釈尊降誕会を催行させていただきました。ご来賓には、市仏連合会長の齋藤隆法師にご臨席賜わり、参勤法中勤行の後、齋藤隆法師の心温まるご法話をいただき、参詣の皆様共々、法縁に遇うことの尊さを感謝させていただきました。合せて今日の命を頂戴していることを喜ばせていただきました。

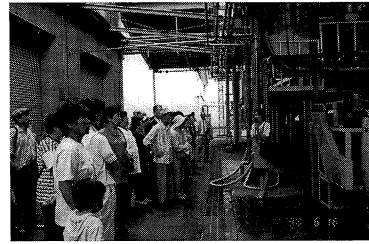
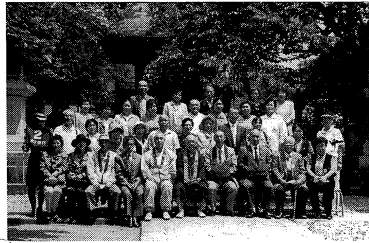
六月四日には、区仏の理事会、総会が持たれ、今年度の事業、予算についても審議いただき、順次進めさせていただいております。各寺院及び教会様には、「助け合いの箱」が総会后、配布せられ、年末の集計まで、浄財が進められる運びとなっております。日々の法話の中に、区仏教会から、一般の方々への無言の呼び掛けとなっておりますことを大切にしてください。

たいと思っております。集計後は、区福祉協議会へお届けする運びになっており、静かな区仏教会の歴史を刻んでいることを改めて噛み締めております。(織田正尊)

金沢区

春爛漫の四月五日(日)には、第52回花まつり大会が区内金利谷、自性院を大会会場として開催された。当日は桜の花が満開の中を、稚児63名が参加して、出発会場、禅林寺より、練供養が行われ、その後、法要も、本堂満席の盛大な大会となった。

六月十八日(木)、金沢区仏教会と釈尊奉讃会の共催による一日研修「長瀬と秩父名刹参拝旅行」が三台のバスを連ねて実施された。梅雨時とは思われない晴天の中、参加者の皆様に大変喜ばれた。八月二十九日(土)、午後六時より金沢公会堂において、第48回金沢仏教文化講演会が開催された。当日は台風の影響もあり、参加者の出足が心配されたが、約二百名の参加をみた。約二時半、横浜市



立大学医学部客員教授、リチャード・ゴリス先生の「へビもカエルも僕のものだ」と題した講演と、全国良寛の会会長、小島寅雄先生の「良寛様と私・人間礼拝のころ」と題した講演に、参加者は熱心に耳を傾け、清聴した。

瀬谷区

五月二十三日、定期総会開催、於寶藏寺。会計から九年度収支決算報告があり承認された。六月十六日、春の参拝旅行に当会から十一名が参加、楽しい一日を過ごさせていただきました。

瀬谷八福神、今回は恵比寿神の善昌寺さんを紹介させていただきました。大黒天の妙光寺さんより南西に三百メートル、ふるさとさん道から緩やかな参道をのぼって山門に入ると正面に本堂、右に恵比寿堂、奥に庫裡客殿、境内左

側には徳川中期頃の植樹と推定される見事な公孫樹の大木が生茂る。市の名木古木に指定され寺のシンボルにもなっている。善昌寺は浄土宗鎌倉光明寺の末寺、山号は慈光山。弘治年間甲州武田氏の支族、岩崎丹後守の開基で本尊は阿弥陀如来。又光明寺より下賜された雨乞本尊と、寅年だけに開帳される薬師如来が本堂に安置されている。因に寅年の本年は十二年に一度の開帳がなされている。

二〇二〇顔の恵比寿さまは、商売繁盛、豊漁の神として大変人気が高い。風折烏帽子をかぶり、右手に釣り竿を持ち、左わきに鯛を抱えている姿は、商人の間では、「釣りして網せず」と心得て、荒い浚い根刮きとって暴利を貪ってはいけない。所謂ほどほどにという戒めだそうである。二〇二〇顔(和顔)・ほどほど(中唐等は仏教にもあい通じるものがありそうである。

今回は昆沙門天の徳善寺さんを予定しております。

事務日誌

- 10・4・9 総持寺慶弔会出席
- 10・4・10 泉区中田寺本葬弔問
- 10・5・29 常務理事会・第二十五回総会(於西有寺)
- 10・6・1 仏跡参拝旅行下見
- 10・6・12 三役会議(四川飯店)
- 10・6・16 第十五回春の仏跡参拝旅行(山梨)
- 10・6・29 都筑区東漸寺弔電
- 10・8・29 港北区金藏院弔電
- 10・8・17 会報47号原稿依頼
- 10・8・20 奉讃会だより発送
- 10・9・10 金沢区伝心寺祝電
- 10・9・30 会報47号第一回編集(於長昌寺)
- 10・10・21 会報47号第二回編集(於東京寺)

編集後記

▲「横浜の寺で天平時代の仏像発見。脱活乾漆造菩薩座像。東日本で初めて」という新聞記事が載った。金沢区龍華寺の蔵からである。龍華寺のご住職は現金沢区仏教会会長の和田大雅師。この技法の天平時代後記の作品は全国で三十体が知られているそうだが、この横浜に技法、造形共にすぐれた遺品が残っていたとは驚きで、有り難いことである。

▲僧名呼称の特集は、会員諸師の熱心なご回答をいただき、思いがけぬ小論に発展した。名は体を現すと言うが、僧侶自身がより親しみ易く、尊敬に値する態を示す必要があることを痛感した。協力いただいた諸師に心より感謝申し上げます。

▲記録映画『地球交響曲』監督の龍村仁氏は「私たちは、生かされている実感をも失っている」と環境セミナーで講演し、この「実感」を取り戻すのが宗教者の役目とも語っていた。(週間仏教タイムス平10・9・3号) 一般的には僧侶、住職も「宗教者」と称される。この宗教者の定義や実践行動も、本当のところを求められると難しいものがある。

▲弘法大師の言葉、「父母の恩は一生涯の肉親の養育にある。国王の恩は人々の生活のことでしかない。悟りの境地に導いてくれるのは三宝の恩である」。また、聖徳太子は「篤く三宝を敬え」と言われた。三帰依文の「自ら僧に帰依し奉る。願くは衆生と共に大衆を統理して万事に障りなきを得ん」の僧は僧伽ソウギヤ、サンガ)の略で、個人の僧を指してはいない。市仏連、釈尊奉讃会も一種の僧伽である。一味和合で仏法興隆、寺門繁栄に益したく念じ申し上げます。

▲前号に引き続き会員の方より、ご寄稿いただき感謝申し上げます。テーマの記事に関連したご意見、自由雑観等、諸師の熱意あふれる声をお寄せ願いたい。

訂正

前号『祈慈愛』単で「浄土真宗大谷派」と記したのは「真宗大谷派」の誤りです。お詫びいたします。